

大項目	中項目	小項目	小項目の例示		
944			薬物作用の日内変動を考慮した用法		
945	C16 製剤化のサイエンス	(1)製剤材料の性質	物質の溶解	溶液の濃度と性質	
946				物質の溶解とその速度	
947				溶解した物質の透過速度	
948		物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割			
949		分散系	界面の性質	代表的な界面活性剤の種類と性質	
950			乳剤の型と性質		
952			代表的な分散系(列挙)とその性質		
953			分散粒子の沈降現象		
954		製剤材料の物性		流動と変形(レオロジー)の概念、代表的なモデル	
955				高分子の構造と高分子溶液の性質	
956				製剤分野で汎用されている高分子の物性	
957				粉体の性質	
958				製剤材料としての分子集合体	
959				薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法(列挙)	
960				粉末X線回折測定法の原理と利用法	
961			製剤材料の物性を測定できる		
962		(2)剤形をつくる	代表的な製剤	代表的な剤形の種類と特徴	
963				代表的な固形製剤の種類と性質	
964				代表的な半固形製剤の種類と性質	
965				代表的な液状製剤の種類と性質	
966				代表的な無菌製剤の種類と性質	
967	エアゾール剤とその類似製剤				
968	代表的な製剤添加物の種類と性質				
969	代表的な製剤の有効性と安全性評価法				
970	製剤化		製剤化の単位操作および汎用される製剤機械		
971			単位操作を組み合わせた代表的製剤を調製する		
972		汎用される容器、包装の種類や特徴			
973	製剤試験法		日本薬局方の製剤に関する試験法(列挙)		
974			日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる		
975			(3)DDS(薬物送達システム)	DDSの必要性	従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点(列挙)
976					DDSの概念と有用性
977	放出制御型製剤	放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点			
978		代表的な放出制御型製剤(列挙)			
979		代表的な徐放性製剤における徐放化の手段			
980		徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質			
981		経皮投与製剤の特徴と利点			
982		腸溶製剤の特徴と利点			
983	ターゲティング		ターゲティングの概要と意義		
984			代表的なドラッグキャリアー(列挙)、そのメカニズム		
985	プロドラッグ	代表的なプロドラッグ(列挙)、そのメカニズムと有用性			
986	その他のDDS	代表的な生体膜透過促進法			
987	C17 医薬品の開発と生産	(1)医薬品開発と生産のながれ	医薬品開発のコンセプト	医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子(列挙)	
988				疾病統計により示される日本の疾病の特徴	
989			医薬品市場と開発すべき医薬品	医療用医薬品で日本市場及び世界市場での売上高上位の医薬品(列挙)	
990				新規医薬品の価格を決定する要因	
991				ジェネリック医薬品の役割	
992				希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性	
993			非臨床試験	非臨床試験の目的と実施概要	
994			医薬品の承認	臨床試験の目的と実施概要	
995				医薬品の販売承認申請から承認までのプロセス	
996				市販後調査の制度とその意義	
997				医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)	
998			医薬品の製造と品質管理	医薬品の工業的規模での製造工程の特色の開発レベルのそれとの対比	
999				医薬品の品質管理の意義と薬剤師の役割	
1000				医薬品製造における環境保全に配慮すべき点とその対処法	
1001			規範	GLP(Good Laboratory Practice)、GMP(Good Manufacturing Practice)、GCP(Good Clinical Practice)、GPMSP(Good Post-Marketing Surveillance Practice)の概略と意義	
1002			特許	医薬品創製における知的財産権	
1003			薬害	代表的な薬害の例(分利ドマイド、スモン、非加熱血液製剤のリアクションなど)について、その原因と社会的背景を説明し、これを回避するための手段を討議する	
1004	(2)リード化合物の創製と最適化	医薬品創製の歴史	古典的な医薬品開発から理論的な創製への歴史		
1005			標的の生体分子との相互作用		
1006			医薬品開発の標的となる代表的な生体分子(列挙)		
1007			医薬品と標的の生体分子の相互作用の具体例(立体化学的観点)		
1008			立体異性体と生物活性との関係に関する具体例		
1009			医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係に関する具体例		
1010		スクリーニング	スクリーニングの対象となる化合物の起源		
1011		代表的なスクリーニング法(列挙)			
1012	リード化合物の最適化	定量的構造活性相関のパラメーター(列挙)、その薬理活性に及ぼす効果			
1013		生物学的等価性(バイオイソスター)の意義			
1014		薬物動態を考慮したドラッグデザイン			
1015	(3)バイオ医薬品とゲノム情報	組換え体医薬品	組換え体医薬品の特色と有用性		
1016			代表的な組換え体医薬品(列挙)		
1017		組換え体医薬品の安全性			
1018	遺伝子治療	遺伝子治療の原理、方法と手順、現状及び倫理的問題点			
		細胞を利用した治療	再生医療の原理、方法と手順、現状及び倫理的問題点		

大項目	中項目	小項目	小項目の例示	
1019		ゲノム情報の創製への利用	ヒトゲノムの構造と多様性	
1020			バイオインフォマティクス	
1021		遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられている方法(ゲノミックサブプロット法など)		
1022		ゲノム情報の創製への利用、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)、ゲノム創製の流れ		
1023		疾患関連遺伝子	代表的な疾患(癌、糖尿病など)関連遺伝子	
1024			疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例	
1025		(4)治験	治験の意義と業務	治験に関してヘルシんキ宣言が意図するところ
1026				医薬品創製における治験の役割
1027			治験(第Ⅰ、ⅡおよびⅢ相)の内容	
1028			公正な治験の推進を確保するための制度	
1029	治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性			
1030	治験業務に携わる各組織の役割と責任			
1031	治験における薬剤師の役割		治験における薬剤師の役割(治験薬管理者など)	
1032		治験コーディネーターの業務と責任		
1033		治験に際し、被験者に説明すべき項目(列挙)		
1034	(5)バイオスタティクス	生物統計の基礎	インフォームドコンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する	
1035			帰無仮説の概念	
1036			パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分け	
1037			主な二群間の平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について適用できるデータの特性を説明し、実施できる	
1038		χ ² 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる		
1039		最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる		
1040		主な多重比較検定法(分散解析、Dunnett検定、Tukey検定など)		
1041		主な多変量解析の概要		
1042		臨床への応用	臨床試験の代表的な研究デザイン(症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験)の特色	
1043			バイアスの種類と特徴	
1044	バイアスを回避するための計画上の技法(盲検化、ランダム化)			
1045	リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる			
1046		基本的な生存時間解析法(Kaplan-Meier曲線など)の特徴		
1047	C18 薬学と社会	(1)薬剤師を取り巻く法律と制度	医療の担い手としての使命	
1048			薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する	
1049			医療過誤(リスクマネジメント)における薬剤師の責任と義務を果たす	
1050			法律と制度	
1051		薬剤師に関連する法令の構成		
1052		薬事法の重要な項目(列挙)とその内容		
1053		薬剤師法の重要な項目(列挙)とその内容		
1054		薬剤師に関わる医療法の内容		
1055		医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わり		
1056		医薬品による副作用が生じた場合の被害救済制度とその内容		
1057		製造物責任法		
1058		管理薬		
1059		麻薬及び向精神薬取締法、規制される代表的な医薬品(列挙)		
1060		覚せい剤取締法、規制される代表的な医薬品(列挙)		
1061		大麻取締法およびあへん法		
1062		毒物及び劇物取締法		
1063		(2)社会保障制度と薬剤経済	社会保障制度	放射性医薬品
1064	放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準(放射性医薬品基準など)および制度			
1065	代表的な放射性医薬品(列挙)、その品質管理に関する試験法			
1066	日本における社会保障制度のしくみ			
1067	社会保険制度の中での医療保険制度の役割			
1068	介護保険制度のしくみ			
1069	高齢者医療保険制度のしくみ			
1070	医療保険			
1071	医療保険の成り立ちと現状			
1072	医療保険のしくみ			
1073	医療保険の種類(列挙)			
1074	国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点			
1075	薬剤経済	国民医療費の動向		
1076		保険医療と薬価制度の関係		
1077		診療報酬と薬価基準		
1078		医療費の内訳		
1079	薬物治療の経済評価手法			
1080	代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる			
1081	(3)コミュニティーファーマシー	地域薬局の役割	地域薬局の役割(列挙)	
1082			在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割	
1083		学校薬剤師の役割		
1084		医薬分業	医薬分業のしくみと意義	
1085			医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する	
1086		かかりつけ薬局の意義		
1087		薬局の業務運営	保険薬剤師医療費担当規則および保険医療費担当規則	
1088	薬局の形態および業務運営ガイドライン			
1089	医薬品の流通のしくみ			
1090	調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)			
1091	OTC薬・セルフメディケーション	OTC薬・セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する		
1092		主な一般用医薬品(OTC薬)(列挙)、使用目的		
1093	漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品			
1094	ヒューマニズム	①生と死	生命の尊厳	
1095	人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する			
1096		誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点		

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
1091			医療に関わる倫理的問題(列挙)、その概略と問題点
1092			死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点
1093			自らの体験を通して、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する
1094		医療の目的	予防、治療、延命、QOL
1095		先進医療と生命倫理	医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷
1096	②医療の担い手としてのこころ構え	社会の期待	医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける
1097			医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する
1098			医療の担い手にふさわしい態度を示す
1099		医療行為に関わるこころ構え	ヘルシンキ宣言の内容
1100			医療の担い手を守るべき倫理規範
1101			インフォームド・コンセントの定義と必要性
1102		研究活動に求められるこころ構え	患者の基本的権利と自己決定権を尊重する
1103			医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する
1104			研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する
1105		医薬品の創製と供給に関わるこころ構え	研究者に求められる自立した態度を身につける
1106			他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける
1107			医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける
1108	自己学習・生涯学習	医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する	
1109		医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する	
1110		医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する	
1111	③信頼関係の確立を目指して	コミュニケーション	言語的および非言語的コミュニケーションの方法
1112			意思、情報の伝達に必要な要素(列挙)
1113		相手の気持ちに配慮する	相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なること(例示)
1114			対人関係に影響を及ぼす心理的要因
1115		患者の気持ちに配慮する	相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する
1116			対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる
1117			病気が患者に及ぼす心理的影響
1118		チームワーク	患者の心理状態を把握し、配慮する
1119			患者の家族の心理状態を把握し、配慮する
1120			患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する
1121		地域社会の人々との信頼関係	不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する
1122			チームワークの重要性(例示)
1123		チームに参加し、協力的態度で役割を果たす	
1124		自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める	
1125		薬の専門家と地域社会の関わり(列挙)	
1126		薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する	
1127	①薬学への招待	薬学の歴史	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割
1128			薬剤師の誕生と変遷の歴史
1129		薬剤師の活動分野	薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)
1130			薬剤師と共に働く医療チームの職種(列挙)、その仕事
1131			医薬品の適正使用における薬剤師の役割
1132			医薬品の創製における薬剤師の役割
1133		薬について	疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割
1134			「薬とは何か」
1135			薬の発見の歴史(具体例)
1136		現代社会と薬学との接点	化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れ
1137			種々の剤形とその使い方
1138			一般用医薬品と医療用医薬品の違い
1139	日本薬局方	先端医療を支える医薬品開発の現状	
1140		麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響	
1141	総合演習	薬害(具体例)、その背景	
1142		日本薬局方の意義と内容	
1143		医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる	
1144		身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる	
1145	②早期体験実習		病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する
1146			開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する
1147			製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する
1148		保健・福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する	
1149	実務実習事前学習	事前学習を始めるにあたって	薬剤師業務
1150			医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる
1151			医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割について概説できる
1152		チーム医療	薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する
1153			医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる
1154			チーム医療における薬剤師の役割を説明できる
1155		処方せんと調剤	自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する
1156			医薬分業
1157			処方せんの基礎
1158		処方せんの基礎	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる
1159			処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる
1160			調剤を法的根拠に基づいて説明できる
1161	代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる		
1162	不適切な処方せんの処置について説明できる		
1163	医薬品の用法・用量	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる	
		患者に適した剤形を選択できる	

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
1164			患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる
1165			患者の特性に適した用量を計算できる
1166			病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる
1167		服薬指導の基礎	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる
1168		調剤室業務入門	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる
1169			処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1170			処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1171			調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる
1172			処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する
1173	疑義照会	疑義照会の意義と根拠	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる
1174			代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる
1175			特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する
1176			不適切な処方せん例について、その理由を説明できる
1177		疑義照会入門	処方せん例の問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する
1178			代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる
1179			代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる
1180			代表的な医薬品について相互作用を列挙できる
1181			疑義照会の流れを説明できる
1182			疑義照会をシミュレートする
1183	医薬品の管理と供給	医薬品の安定性	医薬品管理の意義と必要性について説明できる
1184			代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる
1185		特別な配慮を要する医薬品	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる
1186			麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投棄、廃棄など)について説明できる
1187			血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる
1188			輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる
1189			代表的な生物製剤の種類と適応と説明できる
1190			生物製剤の管理と取扱い(投棄、廃棄など)について説明できる
1191			麻薬の取扱いをシミュレートできる
1192			代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる
1193			放射性医薬品の管理と取扱い(投棄、廃棄など)について説明できる
1194		製剤化の基礎	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる
1195			薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる
1196			代表的な院内製剤を調製できる
1197			無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる
1198			抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるゲミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる
1199		注射剤と輸液	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる
1200			代表的な配合変化を模倣できる
1201			代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる
1202			体内電解質の過不足を判断して補正できる
1203		消毒薬	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる
1204			消毒薬調製時の注意点を説明できる
1205	リスクマネジメント	安全管理	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる
1206			誤りを生じやすい投薬例を列挙できる
1207			院内感染の回避方法について説明できる
1208		副作用	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる
1209		リスクマネジメント	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる
1210			リスクを回避するための具体策を提案する
1211			事故が起こった場合の対処方法について提案する
1212	服薬指導と患者情報	服薬指導に必要な技能と態度	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる
1213			代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる
1214			代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる
1215			インフォームドコンセント、守秘義務などに配慮する
1216			適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する
1217			医薬品に不安・抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする
1218			患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1219		患者情報の重要性	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる
1220			患者背景・情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる
1221			医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる
1222			患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1223		服薬指導入門	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる
1224			共感的態度で患者インタビューを行う
1225			患者背景に配慮した服薬指導ができる
1226			代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる
1227	事前学習のまとめ	総合実習	代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる
1228			疑義照会をシミュレートする
1229			処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1230			処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1231			調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる
1232			患者背景に配慮した服薬指導ができる
1233	病院実習	病院調剤業務の全体の流れ	患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる
1234			病院内での患者情報の流れを図式化できる
1235			病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる
1236			生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する
1237			医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる
1238			職務上知り得た情報について守秘義務を守る

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
1239			薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる
1240			処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる
1241			病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる
1242		計数・計量調剤	処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる
1243			処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる
1244			代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1245			薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる
1246			適切な疑義照会の実務を体験する
1247			薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる
1248			処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる
1249			錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる
1250			調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1251			代表的な医薬品の剤形を列挙できる
1252			代表的な医薬品を色・形・識別コードから識別できる
1253			医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる
1254			代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる
1255			異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる
1256			毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬などの調剤ができる
1257			一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる
1258			散剤、液剤などの計量調剤ができる
1259			調剤機(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる
1260			細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる
1261			特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1262			錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる
1263			調剤された医薬品に対して、検査の実務を体験する
1264		服薬指導	患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる
1265			患者に使用上の説明が必要な眼薬膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる
1266			自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる
1267			お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる
1268			期待する効果が十分に現れていないが、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する
1269		注射剤調剤	注射剤調剤の流れを概説できる
1270			注射処方せん(処方)の記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる
1271			代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1272			適切な疑義照会の実務を体験する
1273			処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる
1274			注射剤(高力リリーチ薬輸液など)の混合操作を実施できる
1275			注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる
1276			毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる
1277			細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる
1278			特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1279			調剤された注射剤に対して、正しい検査の実務を体験する
1280		安全対策	リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる
1281			調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1282			商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる
1283			医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する
1284			インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネジメントについて討議する
1285			職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる
1286			実習中に生じた諸問題(調剤ミス、過誤、事故、クレームなど)を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる
1287	医薬品を動かす・確保する	医薬品の管理・供給・保存	医薬品管理の流れを概説できる
1288			医薬品の適正在庫の意義を説明できる
1289			納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる
1290			医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる
1291			納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる
1292			同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる
1293			院内における医薬品の供給方法について説明できる
1294			請求のあった医薬品を取り揃えることができる
1295		特別な配慮を要する医薬品	麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する
1296			毒薬・劇薬を適切に取り扱うことができる
1297			血漿分画製剤の取扱いを体験する
1298			法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する
1299		医薬品の採用・使用中止	医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる
1300			代表的な同種・同効薬を列挙できる
1301	情報を正しく扱う	病院での医薬品情報	医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる
1302			院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる
1303			緊急安全性情報、不具合回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる
1304			患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる
1305		情報の入手・評価・加工	医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる
1306			DIユースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する
1307			医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる